家族と地域のちからを神戸の未来へ

Think globally
Act locally

神戸市会議員 平木ひろみ

震災23年を経て、神戸は新しいステージに立っています。災害援護資金や新長田の再開発など、残された課題に一定の道筋をつけ、これまで取り組めなかった政策課題も前進しています。神戸をさらなる高みへ押し上げ、持続可能な大都市経営を行くことを目指して、平成30年度の当初予算は6つの柱に沿って編成されています。

1. **輝く子どもたちの未来を創る**
   子育てしやすい環境の整備と教育施策の充実
2. **健康・安全を守る**
   健康創造都市KOBE、高齢者・障がい者施策などの総合的推進
3. **街と地域を創る**
   バランスのとれた賑わいのあるまちづくり、定住・移住の促進
4. **神戸経済を伸ばす**
   神戸経済の安定した成長と市民所得向上
5. **陸・海・空の拠点を創る**
   交通の要衝としてのインフラ整備
6. **市政改革を進める**
   現場対応力の強化、働き方改革による市民サービス向上

平木ひろみが提案してきた政策もたくさん予算案に盛り込まれています。

若者に選ばれるまち+誰もが活躍するまち

家庭と地域のちからを神戸の未来へ

子育て世帯の経済的負担の軽減や、一人ひとりの習熟度に応じたよりきめ細やかな学習指導の充実などは、「若者に選ばれるまち」という観点からも重要です。また、安心・安全なまちづくりを進め、子どもたちを見守り育ててくださっている地域力のある神戸は、「誰もが活躍するまち」そのものです。

家庭での信念をもった子育てと、その家庭を取り巻く地域の力が、家庭の教育力を助け、社会をより豊かにしていく推進力となるに違いないと考えます。そんな力があれば、家族を愛する心、そして郷土を愛する心も自然と育ってくるに違いありません。

「家庭と地域のちからを神戸の未来へ」つないでいけるよう、皆様と一緒に神戸の未来を創っていきましょう。

がん検診受診率向上

がんは,1981年以来国民の死亡原因の第1位であり、生涯のうちに約2人に1人はがんにかかると推計され、3人に1人が命を失っている「国民病」といえます。

2007年4月に施行された「がん対策基本法」を受け、市民にがんの予防、早期発見及び早期治療に関する意識を広め、がんの予防対策と患者及び家族等の活動に対する支援の充実に努め、がん対策の更なる向上を目指し、2014年に「神戸市がん対策推進条例」を定めました。

多くのがんは早期発見、早期治療によって治る時代がきています。乳がん検診の受診を呼びかけるピンクリボン運動を推進し、乳がんだけではなく全てのがんの検診率向上を目指し、自らの問題としてがんと向き合い続けていきます。

多文化共生社会の推進

歴史的に多くの外国人もともに生活されている神戸は、多文化共生、多宗教共生と呼んでもいい多様性を認めあう土壌のはぐくまれているまちです。外国にルーツをもつ子どもたちだけでなく、国際結婚の増加など、日本国籍を有する日本語指導が必要な子供たちも増えてきています。家族皆がよき神戸市民として学び、働き、納税する生活者として社会で共生していくためには、親も子も日本語の習得は欠かせません。

神戸市では、来日すぐの外国人児童生徒に、母国語を理解するサポーターが「生活日本語」を指導していますが、学ぶために必要な「学習日本語」を日本語で日本語指導をする体系まで整えるべきだと提案し続け、支援制度が拡充されました。

一連の政務活動費不正流用事件では、執行猶予付きとはいえ、有罪判決が出されました。神戸市会としては、市民の皆様の神戸市会に対する信頼を回復することが求められると考え「政務活動費に関する再発防止策」をまとめました。

これまで以上に政務活動費が有効に使われるよう、厳格な運用に努めます。

1. 納品（印刷）部数確認の実施
2. 支払い（振込）前の事前確認
3. 全閲覧対象書類のインターネット公開
4. 印刷物関連情報の記載強化
5. 振込の原則の徹底
6. 第三者による検査の強化

民進こうべ政策議員団
平木 ひろみ

編集・発行／民進こうべ政策議員団
〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5番1号
TEL 078-322-5844 FAX 078-322-6161
http://www.hirakihiromi.com

facebook

民進こうべ政策議員団
神戸市会議員（中央区）

平木 ひろみ

2018年 特別号 市政報告

ヘルプマークの導入

ヘルプマークは縦8.5cm、横5.3cmの長方形の樹脂製のプレートで、赤地に白で十字とハートがデザインされており、周囲の人に電車やバスの座席を譲る、駅や商業施設で困っていたら声をかける、災害時に避難を支援することなどを呼びかけるもので、助けを必要としていることや支援の気持ちを表すためにつけるものです。カードの裏面は、「私が手伝ってほしいこと」を自由に記入できるようになっています。障害者手帳の有無にかかわらず、導入自治体の福祉担当窓口などで該当する希望者に無償で配布されています。

2017年7月にJIS改正で規格に追加されたことを契機に神戸市でも導入すべきだと提案し、現在、この春の導入に向けた準備が進んでいます。

ごみ収集のあり方の見直し

神戸市では、缶、ビン、ペットボトルを一括収集しており、ビンのリサイクル率が全国的に見ても大変低いことを指摘してきましたが、ようやく別収集が検討されることになりました。また、高齢化社会の進展を視野に入れ、戸別のひまわり収集などのサービスを必要とする方への対応を、地域やNPOとの連携なども見据えて検討していくべきだと提案していたことについては、新年度以降、新たなごみ収集のあり方が多面的に検討されていくことになりました。

「やさしい日本語」の導入

国内外からの観光客にとっても市民にとっても移動しやすく、住みやすいまちを目指し、案内サインの多言語表記、やさしい日本語表記を含めて、誰でも一人歩きできるわかりやすい案内を目指すべだと提案し、その整備が進んでいます。

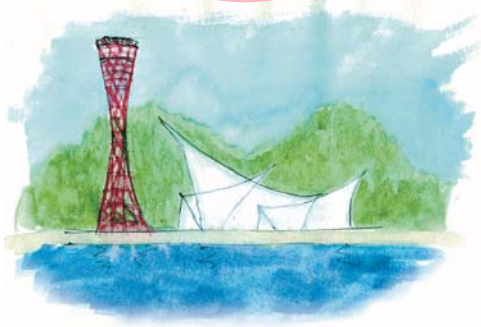
外国人市民と共生する地域社会を目指し、市民への意識啓発を含め、「避難」は「逃げる」、「警戒する」は「とても気を付ける」など、「やさしい日本語」での表現を推奨しています。

高校生以下の美術館入館料無料化

文化創生都市を標榜する神戸市として、市民共有の財産である芸術文化に触れる機会を少しでも多く作り、心豊かな次世代を育てるために、知恵と工夫で博物館、美術館の定期的な無料開放、まずは月1回の無料化に取り組むこと、定休日にも特別開館日を設けることなどを検討すべきではないかと提案しました。

新年度には、美術館の入館料を高校生以下無料にする予算案が提出されています。

市民の声、家庭の声を市政に



シティループのサービス充実

「走る異人館」というニックネームどおり、おしゃれなデザインが好評で、簡単な観光案内がされるようになり、とても快適で手軽な観光バスです。

これまでに、停留所の名前を近くにある観光施設などとの関連がわかりやすいように変更したり、走行ルートを充実させたり、運行時間・便数の拡充を提案し実現してきました。

新年度は、以前に私が提案したICカードを導入する予算案が提出されています。

ポートライナーの混雑緩和対策

ポートアイランドには、多くの企業や研究機関、医療機関が集積し、大学に加えて中学校、高校も開設され、朝夕のラッシュ時の混雑が課題になっています。関西3空港一体運営による神戸空港の便数増加、発着時間延長の可能性、企業・研究機関のさらなる誘致促進のため、長期ビジョンを持って輸送力を増強する必要があると何度も取り上げてきました。

新年度、ポートライナー三宮駅の拡張と8両編成化の導入可能性の検討が予算案に組み込まれました。

小学校英語教育の充実

小学校での英語教育の取り組みは、国際理解教育、小学校英語活動と形を変え、文部科学省は2020年からの小学校英語の教科化を打ち出し、5,6年生の教科化だけでなく3,4年生も必修になります。教科化をにらんで、神戸の英語教育がどうあるべきか、長期的展望を持って、教員のさらなる資質向上を図るとともに、英語授業の進め方や評価方法の研究、サポート人材との協力体制などの仕組みを整えておくべきではないかと提案し続けています。新年度は体制充実が図られます。

コンベンションセンターの再整備

コンベンション誘致は、直接経費の消費のみならず波及的経済効果も大きく、大変裾野の広い産業です。「コンベンション都市こうべ」として、現存施設の総合的見直しを行い、多様なニーズに対応する新しいコンベンションホールの建設を進める必要があると提案し、再整備計画も作られましたが、東京オリンピック前の材料費の高騰を受けて凍結されていました。

今後とも再整備事業のタイミングを見極めていく方針が示されています。